

1. 令和2年度 学校目標

- 1) 質の高い学生を確保し、国家試験合格率 100%をめざす。
 - (1) 3年間継続した学習支援対策
 - (2) 推薦入学生定員数 50%、一般受験者 90 名以上を確保
 - (3) HP の内容の充実とタイムリーな更新

- 3) 母体病院及び機構病院への就職者の確保。
 - (1) 母体病院への就職率 60%、機構病院への就職率 90%
 - (2) 機構病院の PR 活動の実施
 - (3) 卒業生への支援

- 2) 質の高い教育の維持・向上をめざす。
 - (1) 授業評価結果の活用
 - (2) 学校カリキュラム評価 年 2 回の実施と結果の活用
 - (3) 実習指導の充実：臨床との連携
 - (4) 基礎看護技術の教育内容の検討

- 4) 職務満足度の向上
 - (1) 年時休暇の計画的な取得、時間外勤務の削減
 - (2) 看護教員の教育力の向上
 - (3) 研究活動の推進

2. 重点課題

1. 質の高い学生の確保及び国家試験 100% 合格
 - 1) 学生個々の学習状況に合わせた国家試験対策の検討
 - 2) 成績低迷者フォロー対策強化
 - 3) 指定校推薦基準の見直し
2. 職務満足度の向上
 - 1) 計画的な年休取得及び業務と勤務時間の調整
 - 2) 学内研究授業のリフレクション後の活用

3.

I. 教育理念・目標

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	4	定められている
2. 学校における職業教育の特色は何か（定められている）	4	定められている
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	1976年に開校以来、国立及び国立病院機構病院の附属看護学校として社会・地域に貢献しうる人材の育成を行ってきた。しかし、2019年に長野県内に4年生看護大学が2校開校したことで、専門学校の学生確保は難しくなるとともに、校舎の老朽化も進み、国立病院機構及び母体病院等との協議により、2024年3月で閉校することが決定した。 今後は、母体病院のみならず、長野県内の機構病院及び地域医療に貢献できる看護師の育成に努め、閉校まで確実に輩出する。
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	学生には入学時にオリエンテーション期間を設け周知を図ると共に、日頃より関連内容についてその都度説明している。 保護者にも入学式・戴帽式後「保護者会」を開き説明する機会を設けていたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により開催できず、直接の説明はできなかったが、学生便覧等を配布し、学校教育の周知を行った。
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	看護師に求められる実践力を身に付けるための教育になっている。

① 課題

関東信越グループ内の看護学校としては理念・目的・卒業生像は統一の学則で明確になっている。当校はR6年度に閉校が決定となった。それに伴い、今後は修学年限に限りが出てくるため、留年・休学を視野に入れた履修は難しくなる。したがって、当該学年で確実に単位習得ができ閉校時には全員が卒業できるよう学習支援の強化のための具体的な学習計画の立て、実践する必要がある。

R2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、社会活動に制限があり、保護者会が持てなかった。しかし、現在在学している学生の日常生活態度や学習状況を踏まえると、今後は、感染状況を確認した上で、保護者への説明会の開催も検討する必要がある。

② 今後の改善対策

- ・在学年限を考慮した教育の取り組み
当該学年での単位習得ができるよう、学生一人一人に合わせた丁寧な教育を強化する。
- ・コロナ感染の収束状況をみて、保護者会の実施
閉校に伴う学則の変更・卒業までの科目履修方法（学習支援）について説明をする。

③ 特記事項

II 学校運営

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	教育目的に沿って年間目標・計画を立案し実施している。
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	母体病院の年間目標に基づき学校目標を立案している。
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	各種規程、業務基準等学則・学則細則に明示されている。意思決定については、教員会議、学校運営会議で審議し決定している。
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	国立病院機構の規程に明記されている。業績評価を実施し、給与に反映されている。
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	母体病院の庶務課・企画課と調整している。また、学校運営会議にて資料を提示し、承認を得て進めている。
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	職務・就業、倫理等国立病院機構の規程に基づき整備されている。
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4	病院広報誌5回/年、HPは学校行事、公開講座、学校説明会、入試情報など新しい情報をその都度公開している。学校の自己点検自己評価結果、卒業時カリキュラム評価等もHPで公開している。 HPの更新は業者に依頼しており、業者の作業時間等も考慮してできるようになり、昨年よりはタイムリーな変更ができるようになった。
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	今年度は学籍簿支援システムの更新をした。また、共有ファイル使用により、業務の効率化を図っている。 学生への連絡も連絡網システム（オクレンジャー）の導入により、新型コロナウイルスの感染拡大による学校休校時でも円滑な連絡、相談ができるようになった。

① 課題

- ・情報システム化は図れたが、さらに効率的に使用できる機能の習得が必要。

② 今後の改善対策

- ・システムの可能機能を確認し、習得する。

③ 特記事項

III 教育活動

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	教育課程・シラバスに明示されている。
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	指定規則を厳守し、教育理念・卒業生像を踏まえた教育目標到達のための学習時間が確保されている。
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	教育内容に基づき体系的に編成されている。
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	職業教育の視点に立ったカリキュラムは実施されている。 研究授業は新型コロナウイルスの感染により、他校の教員が参観しての意見交換はできなかった。しかし、校内教員間は研究授業の参観、演習のサポートをすることで教育方法の工夫や開発のアイデアを出し合い進めることができた。 キャリア教育の一環として、母体病院から認定看護師からの資格取得までの方法や役割などを学べる特別講義を組み込んでいる。
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	実習関連施設へのカリキュラム説明の機会を作り、実践に即した見直しは部分的に行っている。 次年度の新入生をもって閉校が決定しているため、当校での新カリキュラム導入はないが、関東信越グループ内では新カリキュラムも共通カリキュラムとして検討がされており、その内容について当校教員に周知し、共通認識できるようにする。
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	技術演習・臨地実習を系統的に組み、実施している。また、3年生の12月にはOSCE(客観的臨床能力試験)を実施し、卒業前にOSCEの振り返り(検証)の機会を設けている。
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	科目終了時に学生からの授業評価は実施している。しかし、授業者側の評価はしていない。
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	R2年度から外部評価者委員会を立ち上げ、評価を実施している。
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3	成績評価・単位認定、卒業判定の基準は明確となっている。進級判定の基準は明確になっていないが、学生の個々の状況に合わせ、保護者・本人と相談の上対応している。
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	1年次から看護師国家試験対策に対する学習支援を計画的に行っている。カリキュラムの中にも組み込み3年間計画で指導体制づくりをしている。
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	看護学の各専門領域を担当する教員が在籍している。教員個々にさらに専門領域の知識を深めるための努力をしている。

1 2. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3	各専門領域の講師を依頼している。
1 3. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	新型コロナウイルスの感染拡大により、研修会や学会等の中止が相次いだため、参加の機会が限られたが、WEB による学会や研修会の参加により自己研鑽を図った。また、自己の研究についてはWEB にて意見交換等を行い、進めている。研究助成金制度により、各教員は自己研鑽のために個々で研修や学会に参加している。
1 4. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	教員個々で参加した研修について、教員会議で研修報告を行っている。 新型コロナウイルスの感染拡大により他校の研修への参加はできなかった。他校の研究授業に参加できた教員は1名(リモート)であったが、今後のICTを活用した授業の工夫の参考になった。今後は、直接の参加だけでなく、ICTの活用を含めた研修の企画・参加を行う。 学校内では専任教員同士で授業参観し、積極的な意見交換を行うことができた。
1 5. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	4	教員研究グループでの研究の取り組みに対して保障されている。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、WEB での研究会となったが、各自情報科学室等を使用し、実施できた。今年度は学会も中止等があり、発表は1件であった。
1 6. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	3	研究活動を助言・検討するためのアドバイザーを依頼できる研究助成金の体制は整えられているが十分な活用とは言えない。

① 課題

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、集合での研究授業の企画ができなかったため、他校の教員の研究授業に参加することができなかった。
- ・ICTを活用した授業の研究や自己研鑽のための研修の企画・参加方法を考える。

② 今後の改善対策

- ・校内での研究授業の実施
- ・ICTを活用して、他校の教員の研究授業の参加できるようにする。

③ 特記事項

IV 学修成果

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 就職率の向上が図られているか	4	R2年度卒業生の就職希望者の就職率は100%である。(母体病院就職 61.5%、機構病院就職100%)進学希望者も希望学校に入学が決定した。 1年次より定期的に面接等を行い、適宜進路指導を実施している。母体病院および機構病院の魅力伝えていく。R2年度は、就職活動のための

		県内・近隣機構病院就職説明会やインターンシップが中止になる、あるいは小規模になったため、機構病院については、WEBにより開催し、病院のPRを行っている。
2. 資格取得率の向上が図られているか	4	令和元年度卒業生看護師国家試験合格は97.6%であった。(R2年度合格発表は3月26日)昨年度国家試験不合格であった卒業生に対しては定期的な学習内容や進捗状況等や勤務先での勤務上の調整等を確認し、模擬試験も3年生と同様に受けられるよう個々への対応を行った。 1～3年生には、4月より計画的に国家試験対策を実施している。各学年とも学生の状況を踏まえ、各クラスに合わせた支援を行っている。定期的に国家試験対策の模擬試験を実施。合格圏内に達していない学生に対してはきめの細かい個別指導を行い、教員会議で各学年の学習支援状況については意見交換をしている。
3. 退学率の低減が図られているか	2	令和2年度は、1年生2名、2年生3名が退学している。昨年度より、退学率は増加している。学生の背景には、大学進学者の増加により、入学者の学力低下や人間関係の構築の難しさが、学力継続の難しさに比例し、退学に繋がっていると考えられる。 学生が学習や学業継続に悩んだ時等は、個別面接や学習支援及び保護者との面接等、学生に必要な支援を行っている。入学前からの看護師になりたい気持ちと実際の学習内容に自己の学習能力が追い付かずに学業継続の断念や、実習での患者との躓きにより進路を変更している。
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4	国立病院機構内での卒業生の状況は看護部から情報を得ているが、それ以外の就職者と進学者の状況把握は十分ではない。 在校生は、病院でのアルバイトや地域でのボランティア活動の参加等母体病院と連携して積極的に参加する機会がある。R2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の状況であったが、実習病院で行われているクリスマス会にメッセージ動画を提供や掲示物など、積極的に参加する機会を設けている。
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3	病棟実習で認定看護師から臨床講義を受ける機会を設け、3月には全学年に対し、卒業記念講演を実施。キャリアアップを考える機会となっている。また卒業生が年間数名、看護学の学士取得のため大学への編入を希望している現状があることを、成績証明書請求等で把握している。

① 課題

- ・ 国家試験合格率が 100%でない。
- ・ 退学者がいる。

② 今後の改善対策

- ・ 1年次からの個別学習支援を各授業科目、実習担当で支援する。
- ・ 学生の日常のかかわりから、成績低迷者、進路に迷いのある学生を早めに把握し、対応できるよう、教員間での情報共有や連絡を密にする
- ・ 学生が適切な進路選択（休学・退学・進路変更）ができるよう教員間で情報共有し、適切な生活支援、学習支援を行う。

③ 特記事項

V 学生支援

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	各学年担当が、学生個々の進路希望を調査し、それに基づいて計画的に面接を実施した。また、定期面接以外にも、学生個々の状況に応じて、進路に対する相談に応じ、学生が進路を自己決定していけるよう支援した。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響があったため、就職ガイダンスは従来通りの方法では実施できなかったが、WEBで実施するなど臨機応変に対応した。 3年生に対しては、就職者に対して採用試験願書の指導を行った。また、就職試験・進路試験に関して各人に合わせ小論文対策、模擬面接を計画的に実施した。
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	学生の相談内容に合わせて、担任等が相談に応じられるように体制を整えている。必要に応じて学校カウンセリングを受けられるよう調整を図っている。学校カウンセリングは月2回の直接相談のほか、メールでも相談ができる体制を整えている。
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	奨学金に関しては、入学時に加えて随時説明、対応している。奨学金申し込み書類（志望動機）の記載確認指導や、模擬面接等実施した。 新型コロナウイルスの感染拡大により経済的支援についてはその都度掲示や各クラスへのインフォメーション等で周知し、適切に対応している。
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	学則に基づき健康診断を実施している。校医の指示で、再検査や受診の必要のある者については指導し、結果をフォロー・校医へ報告している。 B型肝炎（2年次）・インフルエンザの予防接種や体調不良時の受診、新型コロナウイルス感染拡大地域へ行った者の抗原検査などについて、母体病院と連携し体制を整え実施した。

		新型コロナウイルス対策として、学校対応フローチャートを作成して学生に周知し、学生全員に行動歴の記載の徹底、生活指導、寮内で感染が疑われる者が発生した場合の対応策も実施している。
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	自治会活動については担当教員を窓口にして学校全体で支援を行った。茶道部・スポーツ部などの課外活動は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で活動中止とした。学生の技術練習や学習支援を学生個別の状況に合わせて計画実施した。
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	3	新型コロナウイルス感染対策として、消毒薬の設置、三密を避けるための共用している学習環境を見直し整備を実施した。また、トイレ・洗面所にペーパーホルダーの設置やトイレクリーナーの設置を行った。感染者の発生はない。 学生寮は、猛暑及び寒さ対策として学校施設の一部開放をしたほか、雨漏り修理を依頼している。院外実習時の宿泊施設の環境も、学生の意見を反映し可能な限り調整した。
7. 保護者と適切に連携しているか	4	R2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で保護者会等が実施できなかった。連絡すべき事項は文書を郵送するなどした。学習面・行動面・健康面で気になることがあれば保護者と連絡を取り、必要時面接を行った。
8. 卒業生への支援体制はあるか	3	里帰り企画を計画していたが新型コロナウイルスの感染拡大の影響で従来の実施は中止とした。国家試験不合格者に対する学習支援は密に行った。また、国立病院機構内に就職した卒業生の状況については看護部より情報を得ることができる。 卒業生には卒業後いつでも学校に相談に来られるような環境づくりをしている。 また、同窓会とも連携し卒業生を支援している。
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	奨学金制度の活用案内などを個別の状況によって対応した。クラスでの人間関係について見守り、必要時相談にのるなどの対応を行った。奨学金制度、単位認定制度があり、個別での学習支援は実施している。社会人の受験割合は、令和2年度は18.1%、令和3年度は10.3%と減少している。R3年度で入学生が最後になるため、社会人受験者が減少したと考えられる。
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	新型コロナウイルスの感染拡大の渦中ではあったが、できる限り学校訪問（進路指導、校長等）学校見学、学校説明会を実施した。また、高等学校教員に向け、看護専門学校の特徴や実情について説明会を実施し、高校の教諭との連携を行った。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で公開講座は中止している。 近隣の看護専門学校とは実習病院の調整や必要に応じて連絡や情報交換をしている。

① 課題

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、学校が臨時休業となり学習面・生活面での対応及び制約があったこと。
- ・卒業生の里帰り企画が中止となり、支援が不十分であった。

② 今後の改善対策

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策を十分しながら、学生に不利益にならない学習環境・生活環境の工夫や改善を行う。
- ・卒業生への支援体制の見直し（里帰り企画）

③ 特記事項

VI 教育環境

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	指定規則の基準は満たしている。講堂・体育館などの施設は学内にないため母体病院や市内の施設を利用している現状がある。その他古くなった物は計画的に修理・メンテナンスを行っている。
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	実習施設は教育体制を整備している。インターンシップはコロナ感染症対策のため中止され参加できなかった。海外研修は実施していない。
3. 防災に対する体制は整備されているか	4	防災に関する規定は整備している。防災訓練は隣接している学生寮を含め年2回実施し設備点検も行っている。災害時の対策として各自が最低限の備蓄を行うよう指導し、訓練時に確認している。また通学生の通学路把握のためのマップ作成、緊急時の連絡網(オクレンジャー)を導入した。

① 課題

- ・災害時に必要な備蓄、帰宅困難が発生した場合の対応の検討がしたが、訓練は実施していない。
- ・母体病院との連携のもと、防災マニュアルが整備されていない。

② 今後の改善対策

- ・登下校時の交通機関障害時の訓練の検討。
- ・学校独自の防災マニュアルの作成と母体病院との連携（災害時の備蓄食料等）

③ 特記事項

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4	県内外高等学校への募集要項の発送、県内高等学校への訪問、学校説明会を年間4回実施し62名保護者34名が参加(感染症対策と人数制限をして)した。 R2年度は推薦指定校や選考基準の見直しを行った。その結果、推薦入学試験受験者数22名(昨年12名)、一般入学試験受験者数58名(昨年68名)であった。 R3年度の入学生をもって閉校となるが、R3年度の推薦入学者は昨年度より10名多くなり、一般入学試験の倍率が昨年度の2倍となった。
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	就職先、国家試験の合格率等高校訪問時や学校説明会で伝えたりホームページに掲載したりしている。
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4	県内、国立病院機構内の学校と比べて極端な高低はなく、妥当である。

R4年度より学生の受け入れなし。

VIII 財務

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3	長野県からの運営費補助金、及び遠隔授業環境整備事業等を受けて ICT 環境を整えることができた。また、母体病院の経営改善に向けた努力により、感染防止対策のための環境整備やシミュレーションモデルの購入もでき、新型コロナウイルス禍の中でも、学生の学習環境は整えられている。
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	物品・図書等購入計画を立て、運営会議で承認を得て運営を行っている。R 年度は学校内の消耗品の定数管理システムを構築し、経費の削減に努めた。
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4	母体病院で会計監査が実施されている。
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	国立病院機構において情報公開をしている

① 課題

- ・閉校が決定したため、年々学生数は減少する。したがって県からの補助金も減少するため、経費の削減は必須である。

② 今後の改善対策

- ・学生へも節約の意識や物品の管理の方法等ものを大切にする意識をつける努力を続ける。
- ・寮と学校の物品の区別をつける。
- ・演習での練習物品、実習記録用紙、国家試験対策のコピー用紙の学生負担の検討。
- ・電気使用量の削減。こまめな節電対策を学生と共に実施する。

③ 特記事項

IX 法令等の遵守

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令・専修学校設置基準等を遵守し適正に運営している
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	学個人情報は全て鍵のかかる場所に保管している。令和元年度に個人情報取り扱い規定を定め運用を開始、令和2年度から周知徹底のため学生便覧に記載し学生に説明を行っている。入学生には個人情報に係る承諾書とり学校保管している。生の個人情報に関して学年用・カリキュラム・実習用の HD を使用、鍵のかかるところに保管するなど対策をとっている

3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	中間評価を10月に実施問題点の改善に取り組んでいる。今年度取り組む課題を明確にし、改善できるところから取り組んでいる。
4. 自己評価結果を公開しているか	4	HP上に公開をしている。
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	3	学生とは定期的に面接を実施し担任や関わりのある教員が意見の聴き取りをしている。また教科ごと実習ごとに学生による評価をとりその中でも学生が匿名で意見を記載できるようにしている。R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で保護者会は実施していない。保護者からの電話対応や必要時に面接などを実施している。入学式の保護者会等で、保護者に向けてはいつでも学校へ相談する様伝えている。学生とは定期的に面接等を行っている

① 課題

- ・コロナ感染症対策により、保護者との意見交換の機会がなかった。
- ・保護者と感染症対策などについての連携ができなかった。

② 今後の改善対策

- ・WEBを活用した説明会・意見交換会の実施

③ 特記事項

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	新型コロナウイルスの感染拡大により小学生を対象とした公開講座が中止となり、学校施設を活用した地域貢献の実施ができなかった。教材等地域から依頼があった場合物品の貸し出しを行っている。(訪問看護ステーション等)
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	学校内でのボランティア活動、県内機構病院関係のボランティア活動については奨励・支援しているが、地域のボランティア活動については新型コロナウイルスの感染拡大により中止となることがあり、参加できなかった。(リレーフォーライフジャパン、病院ボランティア)
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	依頼があった場合には、積極的に実施している。 成人・高齢者への地域に向けた公開講座などの実施は近年実施がない状況である。

① 課題

- ・地域におけるボランティア活動の実施ができなかった。

② 今後の改善対策

- ・ 中学生、高校生を対象とした公開講座等を計画し、地域における看護職への興味を向けられる活動を計画する。

③ 特記事項

XI 国際交流（必要性に応じて）

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	1	これまで需要がなかったため、受け入れは行っていない。
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3	学則細則の入学及び転入学の出願について外国籍の者に対しての規約はあり、受験者もいたが、実際の受け入れはない。
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2	インターネットは活用できるが、外国文献はほとんどない。
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	1	国内外で評価される取り組みは行っていない。

① 課題

外国文献が揃っていない。

② 今後の改善対策

外国文献の補充をする。

③ 特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 質の高い教育の維持・向上をめざす。

・評価について

学生による評価を9月・3月に、授業評価・実習評価を年間通して対象学生に実施した。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、緊急事態宣言が発せられ、学校の休講が余儀なくされた。授業の再開後は、学校内での感染予防を重点的に行いつつ学生の授業及び実習の環境を整え、学生の教育の質の確保に努めた。授業時や授業形態（WEB）の変更等を感染状況に応じて実施したが、大きな混乱もなく規定時間を行うことができた。また、授業では、県のICT機材の補助や看護協会からのシミュレーションモデルの貸与や講師の等の協力もあり、学生が密集・密接しないようグループワークやシミュレーション等の工夫もしながら実施できた。実習では主に高齢者福祉施設や保育園、訪問看護等、学生受け入れが難しい時期もあったが、母体病院の実習への振替や学内実習の工夫により学生の実習での学習内容も実習同様確保することができた。また、学生が集合する図書室には飛沫防止パネルの設備や、学校・寮のトイレや洗面所にペーパータオルホルダーの設置、便器のトイレクリーナーの設置を行った。

講義や講師・教員に対しての要望について全学生へフィードバックすることで、教育環境の整備に務めた。

・臨床との連携

実習指導者会議において学生の学習状況や実習での学生の状況を具体的に報告し、臨床と学校が情報をできるだけ共有し、共通認識の下で学生の育成ができるようにした。また、実習場では実習指導者と教員との連絡も密に図り連携を強化が図れた。

次年度からより臨床と学校の強化を図るため、実習指導者と教員で、より具体的な実習指導の考え方や方法について学習する機会を増やすための計画を共同で立案し、令和3年度から開始できるように準備している。

2) 質の高い学生を確保し、国家試験合格率100%をめざす。

・募集活動（応募者数・入学者数の確保）

今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、学校訪問の時期も延期したが、推薦指定校をすべて訪問し、募集活動を行った結果、過去最高の推薦入学者22名を確保することができた。また、学校説明会も4回の実施となったが、総参加人数96名内保護者34名の参加があった。今年度から、入学試験を2回とし1回目39名、2回目19名計58名の受験者であった。昨年よりも10名減少したが、推薦入学者の確保により倍率は昨年度の2倍になり、定員の確保ができた。

・HPの充実

定期的にタイムリーな更新ができるようになり、受験者にも新しい情報を提供することができた。

・国家試験対策

各学年で、年間計画を立て計画的な学習に努めた。学生個々の学習状況の差が大きいため、適宜面接を行いながら、学生の学習状況に応じた学習支援を行った。また、国家試験対応のe-ラーニングを活用して学習効果を得られる環境を整えた。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、3年生は、国家試験までの間自宅学習となったが、WEBでの学習確認や面談などによりきめ細やかな支援を実践しことで、安心して国家試験に臨むことができたようであり、第110回看護師国家試験での自己採点では国家試験100%の合格が期待できる。

3) 母体病院及び機構病院への就職者の確保。

- ・令和2年度から、国立病院機構での採用試験が5月と6月で昨年よりも1か月早くなった。3年生は個人面談を行い、採用試験に備えた。その結果母体病院に66.7%が受験したが、1名不合格者と進学者1名がおり就職率は61.5%である。機構病院への就職率は100%であり、県内就職率は94.5%である。
- ・11月に2年生を対象に母体病院の就職説明会を学校にて行い、県内病院及び甲府病院の病院説明会は2月にWEBで実施した。学生も集中して説明を聞き、病院も学生の質問に丁寧に答えていただき、対面での説明会と同様の効果を得ることができた。

4) 職務満足度の向上

- ・今年度は、新型コロナウイルスの感染の拡大により学会等中止及びWEBでの開催となり、学会発表は1名にとどまり、計画通りに参加できなかった。しかし、教員研究はWEB会議を中心に行い、ほぼ計画通りに進行している。次年度の学会もWEBでの開催がすでに発表されているもあるため、発表に向けた準備を行ってきたい。
- ・今年度は、学校内での研究授業を8回実施し、他校でのWEB研究授業に1名が参加した。次年度も計画的に研究授業を続け、効果的な教授ができるよう自己研鑽に努める。
- ・年次休暇の計画的取得、時間外勤務の軽減
今年度8月から、育児休業から教員が戻り、教員8名で業務に臨んでいる。
年休は、平均8.4日で、5日以上年休取得はできた。しかし、取得日数には個人差があるため、引き続き計画的な年休取得ができるよう体制を整える。
- ・超過勤務については、就業前の業務調整等を行い、昨年度よりも約50%の削減ができた。また、物品等の定数化を図るなど業務の効率化を図ることができた。

5. 総合評価

目標はおおむね達成できた。

次年度の取り組む課題は以下の2点である。

1. 看護師国家試験 100%合格

- 1) e-ラーニング等を活用し、個々の学習状況に合わせた学習支援の強化
- 2) 講義の知識を実習で活用し、知識と技術の定着ができる教授方法の検討

2. 職務満足度の向上

- 1) 看護教員の教育力・マネジメント向上のための研修参加
- 2) 計画的な年休取得と適正な勤務時間管理